

# エコ体験市場目指す

## 環境クラブ 川満漁港活用し発信

宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)の第1回川満緑の朝市が18日、下地の川満漁港内で行われた。ふだん環境学習の場としている同漁港で苗木や農水産物、手芸品などの青空市を開催。サガリバナの鉢植えや投網、けん玉教室なども行われた。今後、同クラブでは朝市を定期的に開き、販売だけでなく環境や緑に関する情報、技術などを発信したいと考

えている。朝市は午前9時から同漁港東屋周辺で行われた。会場では参加者が観葉植物や花の苗、大きな島バナナの房、貝細工の手芸品、家庭の不用品などを持ち寄って販売。地元の川満部落会は農作物や夜釣りした魚、コ

緑の朝市で房で島バナナを売る参加者18日、川満漁港東屋



エベラベジタブル社はアロ

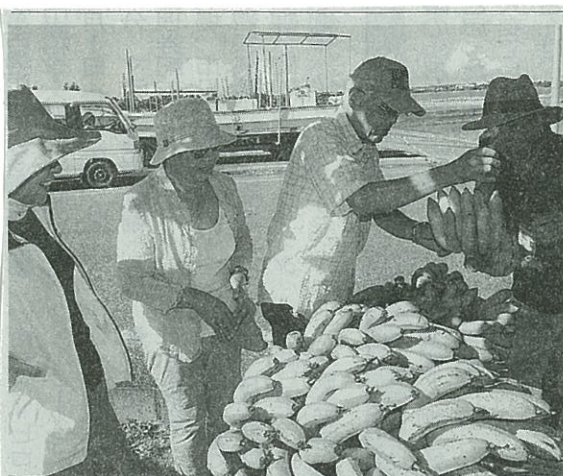
盛り上げた。またワークショップとしてサガリバナやマンダリンの植物の鉢上げ、けん玉や草笛、投網の教室も行われた。

同クラブは川満漁港とマングローブ遊歩道を使った観察プログラムを数多く実践しており、朝市では廉価な緑の産物を手に入れ、多くの人が集まることで様々なワークショップもを行い、交流や体験、情報、技術を得る場として開催。漁港の周辺の自然や施設を生かしたエコ体験市場を目指していく。

下地会長は「川満漁港には遊歩道やグラウンド、東屋など素晴らしい施設がそろっている。海も利用してシーカヤックやサバニの教室も開きたい。漁港をみんなの学習、交流、技術交換の場にしたい。今回は川満部落の住民も積極的に参加しており、地域も元気にしていきたい」と話している。

# 新鮮バナナなど大好評

## 川満漁港で「緑の朝市」



人気を集めたバナナ販売＝18日、下地の川満漁港

「第1回川満 緑の朝市(主催・宮古島環境クラブ、おきなわ環境クラブ)が18日、下地の川満漁港で行われた。地域の農産物のバナナやスイカ、新鮮な魚類などが飛ぶように売れ、大好評を博した。終日多彩なイベントでにぎわっていた。川満漁港におけるエコツアーとエコ体験市場の創出の一環。河川管理環境財団助成で実施した。「健康、水、エネルギー」をコンセプトに▽農村物や海産物など緑の産物が安くて流通する場

▽自然や環境、農業、漁業、園芸などに関する情報とスキルの発信の場などと位置付けている。

特設会場には、ハイビスカスローゼルやサンゴアブラギ、マンダリンなどの苗木、衣服類などの不用品、貝殻などの手芸・工芸品が即売された。

ミニワークショップでは、マンダリン観察、サガリバナ・マンダリン鉢植え教室、投網教室、けん玉教室が催され、親子連れが参加した。

主催者を代表して宮古島環境クラブの下地邦輝会長は、念願の緑の朝市ができて、大変うれしい。今後とも川満漁港で開催したい」と述べた。

川満部落会の下地政之会長は、地元で開催され、大変喜んでいる。今の時期は野菜が少ない。10月にも開催されるので、その時はとくさんの野菜が販売できると語った。

また環境クラブでは

19日午前、下地嘉手苅のヤーバルやすらぎの森公園で第6回MECワークショップを開いた。親子連れが、サガリバナの生育管理(雑草取り・施肥・水やり)と鉢植え教室に参加した。

# 川満漁港有効活用を

地元も参加 「緑の朝市」に期待

18日に川満漁港の東屋広港船主組合、コーラル・ベ  
場で初めて開催された宮古シタブルも青果物や鮮魚、  
島環境クラブの「緑の朝市」アロエ商品などを出品して  
では、川満部落会、川満漁会場を盛り上げた。これま



で地元でも川満漁港の施設を活用した青空市が望まれてきただけに「今後も続けてほしい」と望んでいる。船主組合は前日から沖合

で漁をしてシロタマンやイシミーバイなど約25キを水揚げして販売。同組合の川平洋さんは訪れた人に魚を売りながら「楽しい。これからも続けてほしい」と話した。川満敏彦さんと川上金市さんによる投網教室も行われた。

「緑の朝市」でタマンなどを見せる船主組合の川平洋さん（左） 18日、川満漁港